

進捗状況の概要

期間職員を1名配置し、MANABOSS業務を中心的に従事してもらい、事業実施の組織強化を図った。プログラムの柱の一つであるMANABOSSシステムの充実に着手できていることで、MANABOSS以外の一連の業務を迅速かつ的確に行うことができた。言語能力問題（300問）、非言語能力問題（500問）のコンテンツ開発と、英検協会より過去問題（全級を過去3年分）を提供してもらった。MANABOSSにはアサーティブプログラムに参加をした生徒の約6割以上が登録しており、確実に入学前から基礎学力向上に結びついていると考えられる。コンテンツ（基礎学力問題）の開発について、（遠隔地を含め）共同で作成するためのクラウド基盤を作った。操作方法など含めたマニュアルを作成している。また、音声録音と平行してMANABOSSで使える辞書（3500単語）の製作に取り組んだ。英語教員の意見も取り入れながらの作業となり、質向上を重視し校正回数を増やした結果、製本までには至らず辞書の体裁のデータ作成にとどまることとなったが、次年度配布の準備をする。

アサーティブガイダンスの固定日開催と個別対応は合計31回の実施となった。地方からの個別ガイダンスの要請もあり、高知、岡山、福岡、大分に行った。関西（2府4県）、中国・四国地方への募集拡大については、プログラム受講者合計511名（実人数）、志願者239名、合格者120名となった。高校訪問は、約70校を訪問した。プログラムについては、前年度比3倍以上の受講者となった。また、受験雑誌等で取り上げられたことにより、高校教員の認知度が高まり募集拡大にもつながっている。

アサーティブプログラム参加者の受験対象者538名（実人数）から、アサーティブ入試への出願は、290名（A日程・B日程複数受験含む）と想定以上に増加した。また、アサーティブ入試以外での出願も377名（複数受験含む）となり、大学全体として大幅な志願者増となった。その要因の一つとして高大連携を念頭においた提携校と内容を見直し、アサーティブプログラムへの誘導を行った。併設校からは1名、提携校からは47名の受講者となった。アサーティブ入試の合格者130名（うち2名入学辞退）を対象に入学前学習を実施し、全員が期日までに提出をした。入学前に改めて大学で学ぶ意味を考えることとして実施した内容は、問題集などの入学前学習とは違い、大学生としての自覚の芽生えや修学についての意識の高さを確認できた。

12月に面談職員研修を開催し53名中40名参加した。4～5名のグループで、それぞれの面談事例を検討するケースカンファレンスを行った。多様な高校生の実態とその対応について学び合うことができ、情報共有の機会にもなった。今後、相談者の人数も増加すると予想されるだけに、多くの事例を共有する目的を果たせた。

12月に外部評価委員会、3月に外部評価報告会を実施した。外部評価委員会で指摘された事項を報告会で回答をし、評価を受けるという形式である。全体的に好評価を頂き学内での士気も高まった。次年度は基礎学力適性検査を1次試験に組み込むこととし、2次試験は個別面接のみとすることにした。

アサーティブプログラムの制度設計をする時に参考としたIBについて、具体的な調査をするため国際バカロレア機構アジアパシフィックオフィスを訪ねた。また沖縄尚学高等学校にて、IBについて導入背景などの調査を実施した。アサーティブプログラムで設定をした受験生像は、適切であったと確信することができた。また、IBの10の学習者像を柱に体系的なプログラムを構築していることがわかり、アサーティブの方向性を考える上で、大変参考となった。

2015年度入学者のうちアサーティブプログラム受講者100名を対象にヒアリングを実施し、46名の学生と接触をした。アサーティブプログラム及びアサーティブ入試についての意見・感想や入学後の気持ちの変化などを中心にヒアリングを実施。一人ひとりと向き合い、話すことにより、具体的な改善点も明らかになった。実施の上で大変参考になり、学生一人ひとりの入学後の様子もわかるようになった。